

「消化器がん手術前後の立ち上がり能力と歩行能力の関係についての 後ろ向き研究」のお知らせと調査協力をお願い

当院では以下の臨床研究を行っております。

【研究課題】

消化器がん手術前後の立ち上がり能力と歩行能力の関係についての後ろ向き研究

【研究の概要、背景、目的】

本研究では、消化器がん手術前後を対象に、立ち上がり能力と歩行能力の関係を調査しております。

消化器がん手術後には、手術侵襲に加え術後の安静臥床で身体機能が低下することがあります。そして、日常生活能力の低下は、入院期間の長期化や退院先の決定に影響を与えることが報告されています。日常生活能力に関わる動作には、立ち上がりや歩行があります。しかし、消化器がん手術前後の立ち上がり能力と歩行能力を調査し、その関係性を詳細に分析した報告はありません。

当院では、消化器がん手術前後に立ちあがり能力と歩行能力を測定しております。この測定結果を利用すれば、両者の関係を明らかにすることができます。

本研究の目的は、消化器がん手術前後の立ち上がり能力と歩行能力の関係を明らかにすることです。

【研究の期間】

2025 年 3 月 1 日～2027 年 3 月 1 日

【研究対象】

対象者：消化器がん手術前後の方

選択基準：リハビリテーションの処方があった方

除外基準：腎不全や心不全で運動制限がある方

運動や感覚に麻痺がある方

認知機能低下がある方

【研究の方法】

当院のリハビリテーションでは、消化器がんの手術前と退院時に測定を行っております。本研究では、その測定結果を部分的に 2 次利用し、研究を行います。

【2 次利用する情報】

- ・ 30 秒間立ち上がりテスト
- ・ 10m 歩行テスト
- ・ 歩行自立度
- ・ 階段昇降自立度

【予想される利益、不利益】

利益として、手術前後の立ち上がり能力と歩行能力の低下の有無と改善度が明らかになります。また、立ち上がり能力と歩行能力の関係が明らかになることで、効率の良いプログラム立案につながります。本研究はデータを 2 次利用するものです。本研究の実施に伴い、新たに生じる不利益はありません。

【個人情報の取り扱いについて】

本研究の成果を学術目的のために学会や論文で公表する際には、個人情報を厳重に守り、個人が特定できる情報は使用いたしません。

【研究協力の自由について】

研究への協力は自由意志であり、拒否をされた場合でも不利益はありません。協力を希望されない場合は、お手数をおかけしてしまい申し訳ありませんが、ご連絡をお願いいたします。

【利益相反について】

本研究に開示すべき利益相反はありません。

【研究責任者連絡先】

総合病院土浦協同病院
リハビリテーション部 鮎川拓也
電話 029-830-3711（代表）